



令和5年度 旭地区 幼保小教育交流事業活動報告

活動テーマ 育ちと学びを豊かにつなぐ

～園児・児童の豊かなかかわりと、なめらかな接続をめざして～



活動テーマについて

今年度も新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらできる範囲で、日常的な「ちょこっと交流活動」を取り入れることにより、教職員の「育ちをつなげる」意識を高める。さらに、子どもの交流活動と共に、教職員間交流や共同での研修や懇親会等を行うことによって、円滑な接続につなげていく。また、子どもたちが、つながる4月、5月の交流(子ども同士、職員同士など形態はそれぞれの実態に合わせて)について、実践している園・学校を参考に、話し合っていきたい。

交流事業対象の園・校数

- | | | | |
|--------|-----|-----|-----|
| • 幼稚園 | 24園 | | |
| • 保育園 | 55園 | 小学校 | 24校 |
| • こども園 | | | |

年間活動報告

5月22日 実行委員会

6月23日 年度初め総会 第一回園長校長会

ブロック別交流会(通年)

12月 1日 子育て講演会(会場:希望ヶ丘小)

3月 年度末総会

活動報告① 総会

○ 今年度は感染症、インフルエンザの影響等を考慮して紙面総会とした



- 今年度の計画について
 - ・テーマ ・組織 ・年間計画
 - ・具体的方法とまとめ方
 - ・講演会
- 事業計画書について
 - ・年間計画について ・予算案について
 - ・教育交流事業名簿、地区実行委員会名簿について
- 園長・校長会 ブロック連絡会
(各ブロック代表)
 - ①自己紹介(園長・校長・担当者の顔合わせ)
 - ②ブロック交流会年間計画
 - ③連絡先の確認等

活動報告② 健やか子育て講演会

12月1日
希望ヶ丘小学校体育館

「 みんなで伴走し、育てよう！旭区の子どもたち
～年長から小1の2年間の架け橋期の教育を考える～ 」

<講師> 寶來 生志子 先生

東海大学 児童教育学部 児童教育学科 准教授

プロフィール

横浜市の公立小学校勤務ののち、平成24年から28年は、横浜市こども青少年局担当課長として、幼保小連携、スタートカリキュラム推進を担う。

平成29年より横浜市立池上小学校校長。同校では、入学して間もない1年生の学校生活の様子を積極的に授業公開するなど、スタートカリキュラムの在り方を全国に発信した。横浜市立恩田小学校校長を経て、令和5年度より現職。NHK Eテレ「おばけの学校たんけんたん」「すたあと」の制作にも協力。

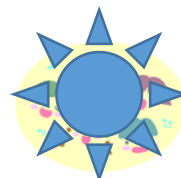
健やか子育て講演会

本日のメニュー

- 1、「学びに向かう力」を育もう
- 2、スタートカリキュラムを知ろう
- 3、学校探検をのぞいてみよう



子どもは、安心しなければ
自己を発揮できない



「子どもは、
学ぶ意欲と学ぶ力をもった
有能な学び手である」

- ・ 肯定的な子ども観
- ・ 共感のまなざし
- ・ そして、笑顔



どれだけ、
子どもの立場に
立てるか

新しいスタートカリキュラム

- ・ 今までの経験で、たくさんの知識や技能の獲得をしていることを理解する。
(幼児期の終わりまでに育てほしい姿)
 - ・ 知識を押し付けない、否定しない、待つことが大切。
 - ・ 丁寧すぎない指導
- 「どうしたい?」「どう思う?」と子どもの意思を尊重し、任せる。

- ・ 子ども自身が興味・関心をもっているとき、その子のもっている最大限の力が発揮される

学校は、はてながいっぱい!
学校探検は身近なところから同心円状に!

必要感の
ある
はてなが
たくさん
生まれた
↓
学校探検へ

□Aブロック活動報告

さちが丘小学校 三輪幼稚園、万騎が原幼稚園 太陽の子さちが丘保育園 グローバルキッズ万騎が原園・・・



園児と一緒に校庭で遊ぶ計画を立てた。各クラス、年長児のことを考え、みんなが楽しめる遊びを一生懸命考える姿が見られた。また、招待状を作成し、避難訓練で来校した園児に手渡したり、下校時に幼稚園に届けたりした。

・長縄上手にとべたね。
1年生が縄を回すよ。

「どんじゃんけん」知ってるかな。順番に並んでね。一緒に玉入れをしよう。運動会でもやるよ。

□Bブロック活動報告

◇【川井小学校】【川井宿幼保連携型認定こども園】

1年生 いっしょに球根を植えたり、遊んだりしました



「じゃんけん列車、楽しいな」
「カードを使った遊びもしたよ。」



1年生になる頃、お花が咲くよ。楽しみだね
このくらい深く球根を植えるよ。
お互いが相手意識をもって優しい気持ちで接している様子が見られた。児童は、自分たちの成長にも気づくことができ、一方園児は、お兄さんお姉さんや小学校への憧れの気持ちを抱くことができた。

5年生 探検したり遊んだりしました。
学校○×クイズ
わかるかな。

□Cブロック活動報告

◇今宿小学校 今宿幼稚園、今宿保育園、ちとせ保育園



・11月

園児をあきまつりに招待した。年長児のことを考え、みんなが楽しめる秋の物を使った遊びを一生懸命考えて計画や準備をしていた。招待状を直接手渡ししたことで、当日への意欲が高まっていた。当日は、いろいろなお店にたくさんの園児の皆さんが来てくれて、とてもうれしそうだった。園児のみなさんもお店ごとの遊びを楽しんでいた。

どんぐりゴマの回し方を
教えてあげました

□Dブロック活動報告

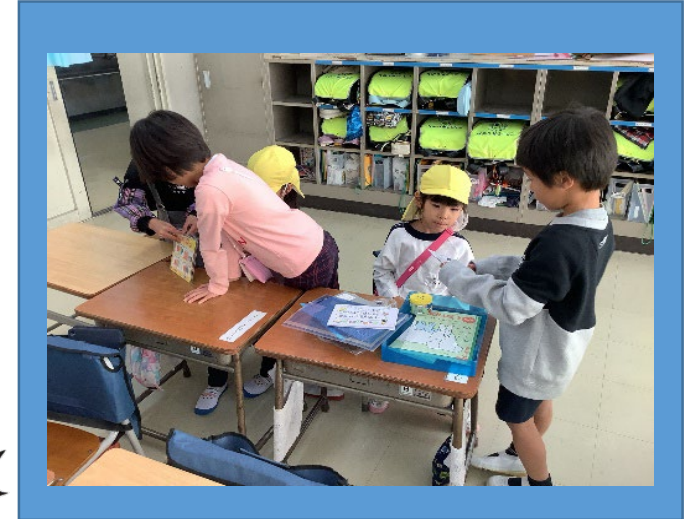
◇善部小学校 横浜三輪幼稚園、善部保育園幼稚園



・【4月 なかよしタイム】
小学校は園からの延長と捉え、園での生活を参考にしました。着席して朝の会ではなく、支度ができた児童から、外遊びや室内遊びの時間を確保した。



【9月 善部公園遊び】
1年生と年長児の出会いの場を計画した。公園遊びで出会い、一緒に虫取りや鬼ごっこ、リレーをして遊んだ。



【11月 小学校へ招待】
公園で出会った園児を招待して、教室案内やブロック遊び、ipadをみせて、小学校生活を体験させることができた。交流が深まった。

□Eブロック活動報告

鶴ヶ峯小学校 鶴ヶ峯幼稚園・二俣川幼稚園・グリーンヒル幼稚園・西川島保育園・あゆみ保育園
ポプラ保育園・ポプラ第二保育園・オハナ鶴ヶ峰保育園・上の原幼稚園・上の原保育園
キッズガーデン横浜鶴ヶ峰・あつがる保育園鶴ヶ峰・鶴ヶ峰保育園



令和5年11月
【幼稚園にお手紙を書こう！】

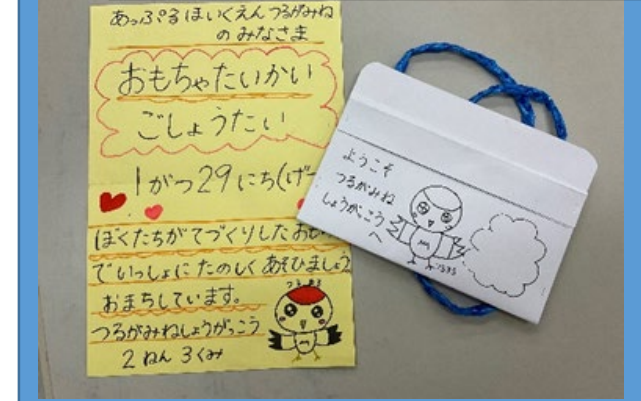
小学校のいいところや、おすすめポイントを模造紙にまとめて、交流園に送りました。

12月
【秋あそびに招待しよう！】



1年生が生活科の秋あそびで作ったおもちゃを使って、一緒に遊びました。「どんぐりすくい」「けん玉」「的当て」などを作って遊び、自分たちが感じた楽しさを他の人にも伝えたいという思いから、交流に繋がりました。

1月・2月【手作りおもちゃ大会に招待しよう！】
【小学校はこんなところ】



2年生は、年明けからおもちゃ大会と学校案内を通して交流する予定です。招待状やプレゼントなど、交流園の子たちのことを考えながら準備を進めています。

成果と課題 来年度に向けて

【成果】 学校では、一番年下で上級生にいつも面倒をみてもらう機会が多い1年生だが、年下の園児との遊びを計画することで立場が変わり、思いやる優しい気持ちが見られた。交流の準備を進めたり、当日会を運営したり、園児と優しく触れ合ったりする児童はとても生き生きとしていて、主体的に考える姿が見られた。

入学当初、自分が不安だったことや心配だったことも思い出し、「来年度入学してくる1年生」「2年生になった自分」について考え、自分の成長に気付くことができた。

・昨年度の活動をもとにして、幼保小推進委員で情報を共有し、年間計画を立てることができた。学校の教育方針や、園の保育・教育方針を出し合うことができた。

・交流を通して、児童は園児と園の先生に久しぶりに会い、園児は小学生や小学校教員と出会い、有意義な活動をすることができた。

・2年目の『なかよしタイム』でも、児童はゆったりと無理のないスタートを切ることができた。

・園児のみんなに楽しんでもらいたいという思いを常に持ちながら、準備や練習などを行ったことで、一人一人が相手意識をもって主体的に活動する姿が見られた。優しく声をかけたり教えてあげたりする姿がたくさん見られとても微笑ましかった。入学してから、自分たちがお兄さんお姉さんになってお世話をするという経験がなかったので、2年生に向けて頑張ろうという意欲の高まりを感じることができた。また、普段の学習の中で、また園児のみんなを呼びたいという声も多くなり、交流することを楽しみにしている児童も多くなっている。

成果と課題 来年度に向けて

【課題】

・今年度は、感染症も落ち着き、直接関わるができるような活動を考えた。子ども達同士が1年間を通して、もっと交流していくことができたらいいなと感じた。

また、雨天プログラムも計画していたが、園児のお出かけが難しいということで延期になったり、インフルエンザの流行で中止になったりした園もあり、残念であった。

・各園で身に付けてきた力をはっきりさせ、それをもとに小学校教員は『なかよしタイム』→『わくわくタイム』→『ぐんぐんタイム』で児童が身に付けていくべき内容を明確にもたなければならなかった。

・すべての園を同時に集めて交流するためには、日程や時間の調整が難しいと感じた。今回は、1つの園が来ることができなかつたため、年度初めに年間の予定を各園に聞いておき、日程を決めておいてもよいのではないかと考えている。

・より必然性をもたせた交流会や相手意識を高めた交流会にしていくにはどのような取り組みができるか考える必要がある。教育課程の内容と関連付けながらよりよい内容を考えたい。